

日本の大学への進学のために

その5：書類準備について

駿台国際教育センター チーフカウンセラー

井原 俊哉

北米で学んでいる皆さんは、今後の進路についてどのように考えていますか。アメリカの大学に進むことを考えている方、日本に戻って日本の大学への進学を考えている方、どちらにしようか迷っている方など様々かと思います。

駿台国際教育センターは、日本に戻って大学受験をされる方々が学ぶ場所ですので、日本に戻る場合にまず最初に準備しておいていただきたいことを述べていきます。

4月入学のための帰国生大学入試は、例年9月頭を実施する早稲田大学から始まります。6月に卒業して、日本に戻るとすぐ7月になりまして、早稲田大学の入試までおよそ2ヶ月しかないことになります。この期間中は出願準備（要項や案内の購入、願書・志望理由の記入、受験料の振込み、出願書類の発送など）も行わなければならないため、かなり忙しくなるものと思ってください。

この期間を少しでも楽にするために、前回に引き続き、12年生の段階で海外でできることをお伝えします。早め早めに動いておくことが、後のゆとりにつながります。

1) 早めにカウンセラーの先生に相談

帰国生入試では、いろいろと書類が必要になります。例えば「卒業証明書」「成績証明書」はすべての学校で必要ですし、一部の大学（東京大学・早稲田大学・慶應義塾大学など）では「推薦状」が必要になります。また、半年や1年のアーリー（スキップ）した場合は、その証明書も必要になります。こういった書類は頼んですぐできるものでもないですし、日本の学校に提出するものの作成には慣れていないことも十分考えられますので、早めに10通程度頼んでおきましょう。私立大学の出願期間は、アメリカの高校の夏休み期間になっているため、追加でもらうことや修正をしてもらうことが出来ないことが考えられますので、注意してください。つまり、分かりやすく依頼し、必要に応じて話し合うことが大切になります。また、出来あがったものに、ミスがあることもありますので、内容を確認することを忘れないようにしましょう。余分に頼んでおき1部あけて確認できるようにしておくとういことだと思います。（宛先の大学名を記載することになっていて、開けられないということもありえます。）上記の書類には、校長先生のサインか学校印をもらってください。その上で、封筒に入れてもらい、厳封を

要求する大学もありますので、シールしてもらうとよいでしょう。

出願・試験の早い早稲田大学・慶應義塾大学では、5月中旬までには要項（日程や受験科目、出願に必要な書類が記されています）、および推薦状のフォーマットがホームページ上にアップロードされますから、それを入手したらすぐにカウンセラーの先生に相談するとよいでしょう。用紙が定められている大学の場合は、できる限りそのフォーマットに記入してもらうようにしてください。別紙添付の形になっている場合に、要求内容が満たされていない時は、書類不備になってしまうことがあります。

2) 統一試験を早めに受けておこう

統一試験（TOEFL・SAT）に関しては、すべての学校で必要なわけではないのですが、難関校（一次審査としてスコアを見るのは東京大学・慶應義塾大学など、提出が必要なのは早稲田大学など）では、必要とされることがあります。SATは実施時期が定まっていますし、TOEFLでも日本に戻ってからの受験だと、8月の早い時期の出願校には間に合わなくなりますので、可能なら5月ぐらいまでに納得のいくスコアを出しておきたいところです。計画を立てて受験しましょう。また、自分宛に送られてくるスコアレポートもかならず日本に持ってきてください。実施団体から直送できない大学もありますので、その場合自分でスコアを持って行き、大学の入試担当者に確認してもらうという形をとることがあり得るからです。

ACTは受理してくれる大学が少ないので、できる限りSATを受けておいてください。また、大抵の大学はReasoningTestでよいのですが、慶應義塾大学・東北大学工学部のようにSubjectTestsを要求して来る大学も若干あります。ちなみに指定科目の条件が厳しい慶應義塾大学の場合、経済・商学部は数学2が必要、法学部は日本語が不可、